

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第20号 2009年7月

もくじ

巻頭言・環境カウンセラーとして近頃思うこと	泉 浩二
神田川の水質調査	倉光 康夫
創立10周年記念交流・懇談会のご案内	糸井 守
NHKテレビ番組「ど～する？地球のあした」回答者の奮戦記	田坂 東
「ど～する？地球のあした」質問コーナー回答者を終えて	中西由美子
八王子市の環境施策について	八王子市環境部環境政策課 山崎 光嘉
新会員紹介	倉光 康夫・末光 正忠



シライソウ



カキツバタ



ミズチドリ

中西由美子提供

巻頭言 環境カウンセラーとして近頃思うこと

泉 浩二

環境カウンセラーは「環境保全活動に取り組もうとする市民・事業者等に対し環境カウンセリング活動を行うこと」、「自ら自主的積極的に環境保全活動に取り組み、地域の環境パートナーシップ形成等に寄与すること」、特に「人々の意識や行動を環境に配慮したものに換え、持続可能な社会づくりに主体的に参画するよう促すこと」が期待されています。このような期待に応えられるよう、環境に関する知識、経験、助言を行う資質・能力を求められています。持続可能な社会に向けて、「わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画」(2006年3月)では、世代間公平、地域間公平、男女間公平、社会的寛容、貧困削減、環境保全、天然資源保全、公正・平和な社会を課題として掲げ、「環境保全」を入り口として「環境、経済、社会の統合的な発展」に向けての取組みが必要としています。

このように、環境カウンセラーには、従来にもまして幅広い能力、人々の環境保全活動等への参加を促すような取組が求められる状況となっています。

翻って私たち環境カウンセラーの置かれている状況はさまざまですが、課題の大きさを前にして、また、会員が広く多摩地域に点在する状況の中で個人として協議会としての活動が思うに任せないと感じている人は私を含め少なくないと思います。

MECC設立の目的(個人の専門分野を越えた協力、他機関との協調、情報交換)を念頭に置きつつ、環境カウンセラーとしての初心を忘れずに、限られた時間の中で「自分は何をしたいのか、何ができるのか、何をすべきなのか」を考え「持続可能な社会」を目ざして置かれた立場の中でそれぞれのテーマに向けて最善を尽くしたいものと考えています。

私自身のテーマとしては、「地球規模で考え地域で行動」「気づき」「見える化」をキーワードに、いわゆる先進国の市民として持続可能性(資源制約・環境制約)、地球的公正(南北間・世代間)に対するより大きな責任を自覚する地球市民教育及び市民、事業者における「我が家の環境大臣」活動、「EA21」活動を両輪とした地域での行動等により持続可能な社会への歩みの一歩となればと思っています。

神田川の水質調査

倉光 康夫

水質調査を実践している市民団体等(実施団体:全国水環境マップ実行委員会)が国土交通省および財団法人河川環境管理財団と連携して、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に年1回調査し、全国の水環境マップを作成しています。本年は第6回「身近な水環境の全国一斉調査」として、6月7日(日)に全国で約1000の団体が6500箇所、定められた方法での測定を実施しました。

この調査は子供をはじめとした水環境に関心ある人たちが簡易分析キットを用いて測定するため、専門家による

測定と比較して正確性に欠ける点もあるかもしれませんが、一箇所を長期間連続して観察し続けることによって、河川の状態をよく把握することになり得ると考えています。また、全国で同じ日時に同じ内容の調査を長期間にわたり実施しており、多くの人々が水環境に関心を持ち続けるために有意義な催しです。

今回は神田川ネットワーク(武蔵野・多摩環境カウンセラー協会:後援)として糸井理事長と参加しました。我々の担当は神田川の源流でもある井の頭公園お茶の水(湧き水源)から井の頭線三鷹台駅付近までの計5ヶ所でした。

測定結果

調査場所	水温	COD
井の頭池水源	16	平均 0 mg/L
" 東端(出口)	22	3
夕焼け橋	22	3
丸山橋	22	3
神田橋(東端より2km)	23	3

観察

水源としては自然湧水は少なく、ほとんどが地下100mから汲み上げた水を放流している。放流した水の約2/3は池から地下に浸み込んでいくという。

池では鯉、鮒や外来種であるブルーギル、ブラックバス、アカミミカメが多く生息している。水質としてはわずかに汚れがあるレベルとなっている。また放流した残りの1/3が神田川へ流れ出している。

夕焼け橋付近では、幼い子供達多数が川の中に入り生き生きとした表情で遊んだり、小学生がザリガニ、ヨシノボリ等の採集をしている光景が印象的であった。

丸山橋付近から下流は体長50cm前後の鮒、鯉が多

数泳いでいたが、護岸が垂直でしかも2~3mもあり、容易に水面を見ることがみることができず、都会の川の一面をみた思いであった。

調査地点ではほぼ井の頭池から流出した水質を維持して流れている。また調査した範囲ではゴミ捨てや浮遊がなく、よく管理されていると感じた。

調査中の何をしているのかを聞きにくる人たちも多く、自分達の住む水辺への関心の高さがうかがえた。

なお、今回のデータや神田川の他の地点の測定値及び全国調査各地点の結果は次のホームページで後日公開される予定です。(http://www.japan-mizumap.or)

創立10周年記念交流・懇談会のご案内

環境カウンセラーとして武蔵野・多摩地区で活動してきた当会が、本年10周年を迎えました。この間、多様な環境問題の解決へ向けての活動を実施してきました。その成果をさらなる協働・連携に発展させ、地域の持続的発展に繋がるよう、多くの方々とのコミュニケーションを図るべく、下記の交流・懇親会を開催します。

日時：平成21年11月1日(日)15:00~19:00

場所：武蔵野芸術劇場2階小ホール

(三鷹駅北口より徒歩1分)

参加費：無料

参加者：武蔵野・多摩地域の自治体環境担当者、多摩地域の商工団体および企業経営者、市民の環境活動家、小・中・高校教諭

第1部：MECCのあゆみ(情報提供と意見交換)

第2部：ゲストスピーチ 交流・懇談

第2部終了後、ピュッフスタイルで交流会とポスターセッションによるフリートーク(会場または会場近辺)

申込：氏名、所属、連絡先を電話、Fax等で

下記へご連絡下さい。

糸井守 TEL:0422-45-0352 FAX:0422-45-0353

NHKテレビ番組「ど～する？地球のあした」回答者の奮戦記

田坂 東

今年の3月初旬、携帯に電話がかかってきました。杉並環境カウンセラー協議会及びエコアクション21東京中央代表の鈴木様からでした。「NHKに“ど～する？地球のあした”という子供向けのテレビ番組があって、その番組に寄せられる質問の回答者に田坂さんを推薦したいと思いますが、受けてくれますか？」

私の頭の中では「NHK回答者 有名人 “田坂環境経営研究所”の発展」という「下心」が猛スピードで走り、即答で「是非、やらせてください！」。

家に帰って、番組のホームページを見ました。子供の素朴な質問と上手い回答を見て、「これは、大変な仕事を引き受けてしまったようだ・・・」と背筋に寒いものが走りました。

翌週のMECC例会に参加したところ、一條さんが環境教育の仕事をしていることを知り、早速挨拶に伺いましたら、初代・温暖化回答担当者の浅野さんという愛知県の環境カウンセラーが模擬授業を行われることを教えて下さり、一條さんが浅野さんと連絡を取って下さり、例会の翌々日の土曜日には早速参加し、教えを乞うてきました。

そしてNHKにおける打合せの後に、運命の4月1日、1年間の回答者生活がスタートしました。第2問目の「地球温暖化等の環境問題は、今の不景気と関係ありますか？」という趣旨の難問は、書き直しの連続、ついに4月のMECC例会で皆さんの意見を伺い、子供向けの時事問題解説本やホームページを見つけました。

「ど～する？地球のあした」質問コーナー回答者を終えて

中西 由美子

2008年度、私は「水」で質問コーナーを担当しました。実際には大気やら温暖化やら生き物やら広く質問が飛んできて、大変な勉強をさせてもらいましたが、務めを終え、多くの収穫を得たと感じています。今どきの子どもたちが、環境問題をどう感じているのか、時代を映し出すかのような素朴な疑問に触れ、環境問題をより深く考える機会を頂きました。

質問をした子どもたちの気持ちを想像することから始め、その問題の本質を深く理解しなくては、と思いました。回答のためのリサーチは、実際のところ環境カウンセラーとしての成長に大きく役立ちました。ずばり答えてしまうのではなく、「子どもに考えさせ、行動に移してもらえよう回答を」と



NHK教育テレビ「ど～する？地球のあした」の質問コーナー(左が田坂さん)

また、先代を含めての回答者と環境省の担当者やNHKの担当者の方で構成されるメーリングリストに助けを求めました。そして、ようやくこの難問の回答がホームページに載りました。ただ、ここでも苦労したことで、成長できた気がします。

今は朝日小学生新聞を購読していますし、「週刊KODOMO新聞」の載る読売新聞土曜夕刊を買っています。

結局は、MECCの方をはじめ、皆さんの力添えによって、ようやく成長してきたわけですから、協力して頂いた皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。私は環境マネジメントシステムの審査やコンサルティングが主業務ですが、「わかりやすい説明」の力量向上につながっていることに気がつきました。まだまだ未熟者、更なる向上心を持って、昨年度の中西さんに続いて2年連続でMECCから回答者が選ばれているだけに、MECCの評判を上げることができるよう頑張っていきたいと思います。

NHKや環境省の方々から示されていましてから、ますます、うーんと頭をひねるのでありました。

他の環境カウンセラーの回答も参考になりました。回答にはそれぞれの個性や人柄がにじみ出ていて、ほのぼのした気持ちになりました。熱心なNHKのスタッフや環境省のご担当者との交流も楽しく、深く思い出に残っています。

環境カウンセラーの力量アップ、知名度アップという点でも、このタイアップは素晴らしいと思います。同じ方向を向いている「何か」と「何か」の連携が有効に働くことは、まだまだたくさんあるはずです。環境カウンセラーから発信できることのよいヒントを、与えてもらったと思います。

八王子市の環境施策について

八王子市環境部環境政策課長 山崎 光嘉

八王子市は186平方kmの広大な市域に、約56万人の市民が生活する大都市でありながら、ミシュラン・ガイドの三ツ星に選ばれた高尾山をはじめとする山々や丘陵地を有し、それらを源流とした浅川など多くの河川が流れる水と緑に恵まれたまちです。

市政世論調査では、「八王子に住みつづけたい」という回答が9割、その理由として6割の方が「緑が多く自然に恵まれていること」を挙げており、市民の環境に対する関心も非常に高くなっています。

これらを背景に、八王子市では、地域の市民・事業者と一体となって環境づくりを進めていくため、環境基本条例(平成13年制定)の中に市内6地区で自発的に環境保全活動を行う市民・事業者の団体である「環境市民会議」を位置付けるとともに、環境基本計画(平成16年策定)に市の環境施策だけでなく地域の市民及び事業者の活動についても盛り込み、双方の取り組みの進捗状況について市民・事業者・市からなる「環境推進会議」で進行管理を行うなど、計画、目標の策定から、取り組みの実施、進捗管理にいたるさまざまな局面において市民参加を推進してきました。

その中で、平成16年10月からは、市民の理解と協力を得てごみ収集の有料化を行い、その結果、平成16、17年度と2年連続で、人口50万人以上の都市におけるリデュース(1人1日当たりのごみ排出量)

とリサイクル率で全国1位を達成しました。また、平成17年には「市街地内丘陵地のみどりの保全に関する条例」を制定するとともに「みどりの市民債」を発行し、多くの市民の力で貴重な市街地内の緑地の保全に取り組んできました。

現在は、10年計画として策定した「環境基本計画」の中間見直しを行うとともに、豊かな「みどり」の保全と、地域の特性を活かした緑化を推進するための「みどりの基本計画」、豊かな清流と子どもたちで賑わう水辺の実現や浸水被害の減少を目指すための「水循環計画」、温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化を防止するための「地球温暖化対策地域推進計画」の策定を20、21年度の2カ年に渡り進めており、今後は、平成19年3月に策定した「ごみ処理基本計画」とともに、これらの計画を機軸として環境施策を展開していくこととなります。

特に、「地球温暖化対策」については、家庭における対策とあわせて、エコアクション21の認証取得をはじめとした中小事業者による温暖化対策を支援、促進していきたいと考えています。

今後もあらゆる環境問題に迅速に対応し、市民の視点に立ち、より良いまちにしていけるため、環境カウンセラーの皆様のご協力を賜りながら、環境施策を進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新会員紹介



多摩市在住の倉光康夫です。カラー写真現像所で化学物質の管理、公害防止・環境保全の技術開発、作業環境の改善等を担当し、各地の現像所へのその導入及び技術指導・コンサルタントを約20年間行ってきました。ISO14001システムの構築等の認証取得業務を担当し、その後認証したISO9001もあわせてマネジメントシステムの維持・管理を8年担当。この間、各地の現像所やグループ会社での内部監査を数多く実施しました。最近エコアクション21の審査人の資格を取得しました。今までは企業内での環境保全活動しかしてきませんでしたが、第二の人生では一市民として自然保護活動に参加し、またこれまでの経験を生かした活動をしていきたいと考えています。



環境カウンセラー(市民部門)の末光正忠です。メトロポリタン・サークル西東京の代表として、地元で石神井川の清掃活動をしています。この川は西東京市内を東西4.2kmにわたり流れる一級河川で、4,50年前にはホタルが飛び交っていたそうです。カワニナやタニシが繁殖すればホタルが住めず、「大切なものをかけがえのない子どもや孫たちに残しましょう。ホタル復活は自然回復のシンボルです」と皆さんに石神井川掃除を呼びかけています。また自宅に太陽光発電を設置した約100世帯の計測12年間の成果を共著「広がる、広がれ 太陽光発電 - 設置して分かったこと、困ったこと」で出版しました。

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
180-0003武蔵野市吉祥寺南町3-31-16 糸井守
：0422-45-0352 FAX：0422-45-0353
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
編集者：中西由美子